

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 明保小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	77人	算数	77人	理科	77人
第5学年	国語	82人	算数	82人	理科	82人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

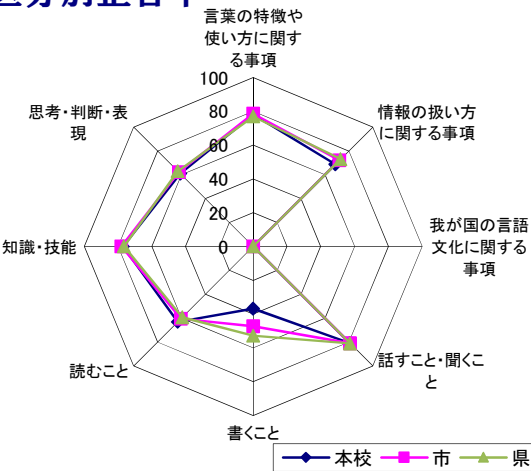
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立明保小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	78.1	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	68.8	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	80.8	81.0	81.1
	書くこと	36.7	47.2	52.8
	読むこと	63.2	60.5	59.3
観点	知識・技能	77.1	78.0	76.5
	思考・判断・表現	61.0	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

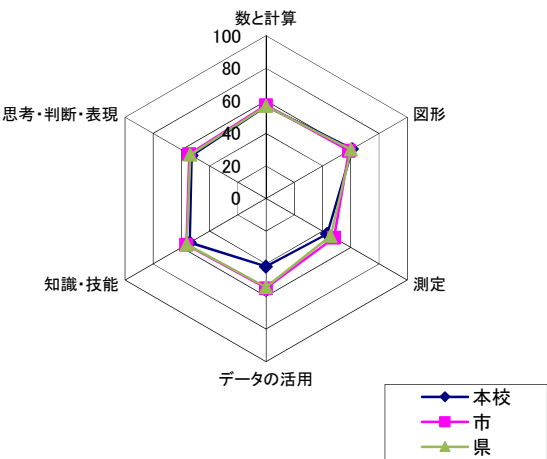
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均に比べ、やや低い。 ○漢字を正しく読むことがよくできている。音読の推奨が文字に触れる機会を増やし、読む活動が増えた成果だと考えらえる。 ●漢字を正しく書くことに課題が見られる。	・1人1台端末と併用して、ノートやプリントを使った、書く指導を行う。指導の中で、既習漢字を用いることを促し、漢字を書く活動を増やし、定着を図る。 ・新出漢字の学習では、熟語で練習する習慣を付け、その漢字を使った言葉や、類語、対義語なども関連付けて覚えることができるように指導の工夫を図る。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均に比べ、低い。 ●国語辞典の使い方を理解し、使うことに課題が見られる。国語辞典では、清音、濁点、半濁点の順に並んでいることの理解が不十分であった。	・国語辞典を単元で扱うとき以外にも用いることができるよう、日常的に使いやすい環境整備をしたり、作文や感想文を書く場面で使うことを促したりし、国語辞典に触れる機会を意図的に増やす。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉えることがよくできている。日常的に話し合い活動を設け、話すこと、聞くことについて研鑽した成果であると考えられる。 ●司会者の話し方の工夫をとらえることに課題が見られる。	・引き続き、朝の会や帰りの会でのスピーチ、ペアトークなどの活動を推進し、日頃から、相手の話を聞いて、内容を理解したり、疑問に思ったことを質問したりできるように指導する。 ・問題文の選択肢をよく読み取り、内容と合致しているものを選ぶ活動を充実させる。
書くこと	平均正答率は、市の平均に比べ、低い。 ●指定された条件で、文章を書くことに課題が見られた。特に、段落に分けて文章を書くことができていなかった。また、無回答率が市に比べて高く、時間配分がうまくできていなかった様子も伺える。	・朝の学習や宿題、振り返り活動等で書く活動を充実させ、書くことに慣れるよう、意図的に時間を設ける。 ・授業における課題や単元テストにおいても、時間を意識するよう声掛けを行い、すべての設問に時間を割り当て、考える時間が確保できるように指導していく。 ・指定された条件で文章を書くことに慣れていない児童が多いため、段落や文字数などの条件を指定するなどし
読むこと	平均正答率は、市の平均に比べ、高い。 ○物語文を読んで、登場人物の様子や気持ちの変化、場面の様子について捉えることがよくできていた。図書室の活用や、読書活動の充実を図った成果であると考えられる。 ●叙述を基に指示語の内容をとらえることや文章を要約することに課題が見られた。	・引き続き、学校図書館司書との連携を図り、図書室の活用や読書活動の充実を図る。 ・指示語や中心となる言葉について着目させるなど、文章を正しく読み取る指導を丁寧に行う。 ・中心となる語や文を見つけて、文章を要約することができるように繰り返し練習し、叙述から文章全体の大まかな内容を捉えられるように指導する。

宇都宮市立明保小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	56.8	57.4	56.9
	図形	61.0	58.7	60.1
	測定	43.2	48.1	45.7
	データの活用	41.6	54.9	54.3
観点	知識・技能	54.1	56.6	56.2
	思考・判断・表現	52.7	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

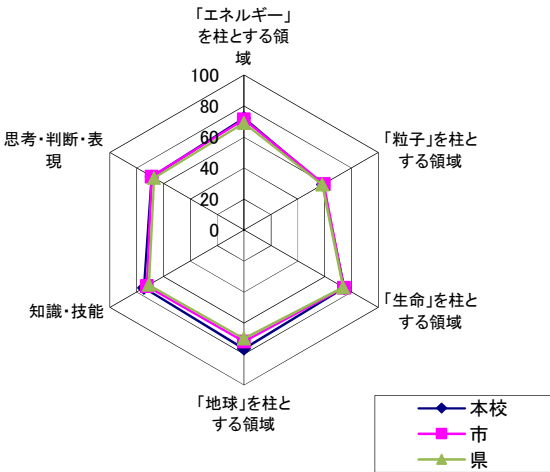
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○ひき算やかけ算の筆算など、基本的な計算は身に付いており、よくできている。計算ドリルやプリント等を活用し、繰り返し計算練習に取り組んだ成果と考えられる。 ●数直線を用いた分数の表し方、わり算とわり算のあまりの意味の理解に課題が見られる。	・今後も、計算ドリルやAドリル等を活用して、繰り返し計算練習を行う。その際、たしかめ算をするなど、見直しをする習慣が身に付くように指導する。 ・図や数直線等の使い方を改めて指導し、それらを用いて考え、それぞれの計算の意味の理解が深まるように支援する。 ・わり算では、問題を具体的な生活場面に結び付けて考
図形	平均正答率は、市の平均より高い。 ○球の半径や直径、三角形の性質の理解はよくできている。球や三角形の学習では、具体物を用いて考えたり、作図の練習を繰り返し行ったりした成果と考えられる。 ●球を平面で切った切り口の形の理解に課題が見られる。	・デジタル教材や模型、ボールなどの具体物を活用し、円や三角形、球等、様々な図形を立体的・視覚的に捉え、その性質や定義を正しく理解できるように指導する。 ・コンパスや定規を用いて実際に長さを測ったり、作図したりすることを通して体験的に学び、実感を伴った理解ができるように指導する。 ・用具の使い方を再度確認し、正しく作図できるように、繰り返し練習する時間を意図的に設けたり、苦手な児童には個別に支援したりする。
測定	平均正答率は、市の平均より低い。 ●時間と時刻を理解して、時間を求めることや、mとkm、gとkgなど、異なった単位を揃えて比べたり、計算したりすることに課題が見られる。また、無回答率も市の平均に比べて高い。	・時間や距離などの単位と、自分の生活との結びつきに気付かせ、単位についての理解が深まるように支援する。 ・はかりや定規の使い方では、実際に重さや長さを測ることを通して目盛りを読むことに慣れ、1目盛りを正しく読む意識が育つよう声を掛けながら定着を図る。 ・体験的な活動を行うために、教材・教具の整備、充実を
データの活用	平均正答率は、市の平均より低い。 ●二次元表の意味の理解や選んだグラフが適切である理由を選ぶことに課題が見られる。無回答率も市の平均よりも大幅に高く、選択式の設問であっても無回答の児童が多かった。	・テストにおける時間配分、問題の読み方など、全ての設問に時間を割り当てて考えることができるように、朝の学習等を活用して、繰り返し演習を行う。 ・それぞれのグラフや表のもつ意味や特長、目盛りの付け方、読み方を再度丁寧に指導する。その際、どのような場面で用いることが適切なのかを、自分の生活場面と関連させて考え、グラフや表の理解が深まるように支援する。 ・日常生活において、児童が疑問に思うような問いを投げかけ、身近な話題をもとに、データを活用する必要性を感じながら目的をもって課題解決できるような場面を設定し、データの活用に慣れるようにする。

宇都宮市立明保小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	72.1	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	58.8	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	74.6	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	76.6	72.0	70.1
観点	知識・技能	74.6	72.5	70.9
	思考・判断・表現	68.7	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○電気の回路について問う設問では、電気の通り道の名称や明かりがつく回路の組み合わせについてよく理解している。 ●跳ね返した日光と温度の関係について問う設問では、鏡で跳ね返した日光の重なり方によって暖かさが変わることの理解に課題が見られる。無回答率も高い。	・予想・実験・結果・考察という学習活動の中で、個人で考える時間を確保し、グループや全体で協議してまとめる流れをつくり、理解を深めさせる。 ・日常生活の中にある科学的な現象に目が向くような課題を提示することにより、学習と生活とを結び付けて考えられるような場を意図的に設定し、理解が深まるように支援する。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○体積を同じにした時の、ものの種類が違う重さについて問う設問について、考え表現することができている。 ●粘土の形の違いによる重さの変化について、予想をもとに実験結果を構想できるかを問う設問では、表と関連付けて選択肢の中から選ぶことに課題が見られる。	・予想・実験・結果・考察という学習活動の中で、個人で考える時間を確保し、グループや全体で協議してまとめる流れをつくり、理解を深めさせる。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均とほぼ同じ。 ○クモとモンシロチョウの体のつくりやあしの数を比較し、クモが昆虫でないことを判断できている。 ●ホウセンカの育ち方を順に並べる設問について、基礎的理解に課題が見られる。	・ホウセンカの育ちを観察することを通して1年間の成長の過程を整理し、つながりを意識しながら基礎的事項の理解を深める。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より高い。 ○温度計の正しい使い方についてよく理解している。また、日なたと日かげについて見出した問題に正対した記録を選ぶ設問についても理解していた。 ●方位磁針の正しい使い方の理解について、課題が見られた。	・基礎的事項の理解を深めるため、実際に方位磁針を使って方位と動きの関連付けをする。 ・日常生活の中で、太陽や月の位置、動きに目を向けて、観察したり確認したりできるよう、声掛けを行う。その際、学校と家庭とが連携して支援できるよう、家庭に協力をお願いする。

宇都宮市立明保小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習に関する設問では、「家で学校の宿題をしている」において、肯定的に回答している児童は93.7%であり、宿題に取り組む習慣がしっかりと身についていることが伺える。家庭学習において、学習に対して自分から進んで取り組んだり、自分で計画を立てて勉強したり、学校全体で「家庭学習強化週間」を設けている成果が出ていると思われる。今後も、家庭学習の内容を充実するよう指導していく。

○話し合いに関する設問では、いずれも市の平均を上回っており、学校課題で取り組んできた「互いに表現し合う児童の育成」の成果が表れてきたと思われる。

●書くことの設問では、国語において「自分の考えを書くときに考えの理由が分かるように気を付けて書いている」の肯定的割合は、92.4%と市の平均よりも高い。しかし、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と答えた児童は59.6%と市の平均よりも高い。語彙力を高めたり、読書を奨励したりする活動を増やし自分の思いを表現できる基礎を段階的に指導していく。

●「難しい問題にであうと、よりやる気が出る」の児童の肯定割合は50.7%と市の平均より低い。「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」と肯定的に回答している児童が市の平均よりも高いことから、困難な課題を解決する方法を示したり、最後まで調べて解決できた喜びを味わう機会を設けたりすることで、根気強く取り組める力を育てていく。